



カメラの歴史に、「自撮り (Selfie)」という革命が進行している。カメラによる撮影は、「他人撮り」の歴史であった。これに革命をもたらしたのが、スマホによる自撮りである (第 59 回を参照)。2013 年にはオックスフォード英語辞典の「今年の言葉」にも選出された。そして、タイム誌は「2014 年の発明品ベスト 25」に自撮り棒 (Selfie stick) を選出した。「自撮り棒による撮影」が、世界中で日常的な光景になりつつある。今回は、自撮り棒の迅速かつ意外な普及過程に焦点をあて、報告することにしたい。

### あっという間に普及した自撮り棒

2015 年 2 月後半から 3 週間弱、ヨーロッパの観光地を訪れてきた。びっくりしたのは、ローマ、パリ、ロンドンなどどの観光地でも、観光客がスマホと自撮り棒で自撮りをしている光景であった。1 年程前にイタリアを訪問した時は、見かけなかった。

なによりも興味を引いたのは、イタリア各地での、観光客に自撮り棒を売りつけようとする露天の人の多さであった。かつて世界の観光地において露天で売られていたのは、絵葉書やガイドブックであった。それが、自撮り棒に代わった (?) のである。自撮り棒の露天販売が、彼らの生活の糧になる時代になったことを実感した。

筆者がこの自撮りの風景を海外で最初に目にしたのは、半年前の 2014 年夏、ワシントンのスミソニアン地区においてであった。観光客や地元の若者が、何か変な棒を持って歩いているのが、妙に気になったことを覚えている。この時点では、自撮り棒で自分撮りをしている人はごく僅かであった。

自撮り棒が、世界で最初に流行ったのは、2013 年末に、インドネシアのジャカルタであると言われている。その後、マレーシアやフィリピンといった東南アジアの各地域に広まり、その後欧米に波及していった。筆者が、もし欧米ではなく東南アジア各地を先に旅行していたら、この報告も 1 年早かったかもしれない。

### 自撮り棒の革新性

自撮り棒とは、棒の先に取り付けたスマホをBluetooth（Bluetooth）のワイヤレス機能で撮影できるようにした、れっきとした通信機器である。これは、大変画期的な製品である。タイム誌は、「2014年の発明品ベスト25」の一つに「自撮り棒」を選んでいる。あっという間に世界に流行し、カメラ撮影に大きな革命をもたらしている。

これまでのカメラ撮影の基本は、撮影者が周りの風景や他者を撮影するものであった。それまでは、自分の写真を撮るためには、他人に頼るかセルフタイマーを利用するしかなかった。それが、スマホと自撮り棒により、撮影者が自分自身を含めた周りの風景を撮影する形に180度変化した。撮影方法や写真画面に革命をもたらしている。

この革命をもたらした機器は、従来のデジカメや一眼レフカメラではない。2000年代後半に登場したスマホによる。新しい機械が、新しい撮影スタイルと写真とを可能にしたのである。しかも、一部のマニアでなく、多くの人々が利用するものになっている。

イノベーションの普及は、全く意外な場所や別の所から始まる。自撮り棒の製品化は日本が最初で、1983年（昭和58年）にミノルタカメラによる「エクステンダー」による（ウィキペディア）。しかし、当時は国内外で普及しなかった。この30年後に、新興国の東南アジアで、自撮り棒の普及が始まった。次いで欧米先進国に広まり、日本に里帰りしたのである。SNS時代におけるイノベーションの普及過程に、留意することが大切である。

## 自撮り棒の相次ぐ使用禁止

自撮り棒が世界中にあっという間に流行した背景には、安価な非正規品や違法な製品（電波法違反）が沢山出回っている実態がある。違法な製品は、取締りや罰金の対象にもなっている。各国での使用禁止も報告されている。

たとえば、「スマホ『自撮り棒』、韓国で規制強化 未認定品販売に刑罰」（ウォールストリートジャーナル、2014年11月24日）の記事である。同紙によれば、非正規のBluetooth通信機能を使用する自撮り棒は、周囲の電子機器に悪い影響を及ぼす危険性があると伝えている。自撮り棒が放出する電磁波の検査を受けていない非正規品が増えているのは問題であり、韓国では取り締まりの強化がなされていると報じている。

また、「各国の美術館、相次ぎ『自撮り棒』禁止令」（米CNN、2015年3月12日）は、米ワシントンのスミソニアン博物館やニューヨーク近代美術館でも、自撮り棒の利用禁止を打ち出していると報じている。これは、アメリカだけでなく、フランスなどヨーロッパ諸国や日本も同様である。

「広がる「自撮り棒禁止」=美術館ベルサイユ宮も一仏」（仏AFP、2015年3月7日）は、ベルサイユ宮殿やポンピドゥーセンター（仏国立近代美術館）でも、利用を自粛したり禁止する方向で検討中と報じている。日本でも、ディズニーリゾートや北陸新幹線開業で混雑する金沢駅でも使用禁止になっている。多くの人が集まるコンサート会場やスポーツ競技場も同様の措置をとっている。自撮り棒の撮影行為が、周囲の人々に迷惑を及ぼすという理由である。混雑する場所でのカメラ撮影の三脚使用の禁止と同じ理屈である。

それだけでなく、自撮り棒を使った覗き見行為や痴漢行為も、社会問題化するかもしれない。この種の問題については今後の動向を見守るしかないが、筆者としては、自撮り棒の今後の新しい可能性について、期待したい。

(TadaakiNEMOTO)